

# キタアカシジミ

*Japonica onoi*

シジミチョウ科



キタアカシジミ

撮影-吉原利之

## 名前の由来

北にいる赤いシジミチョウの意。シジミはシジミ貝に大きさや形、メスでは色も似ていることからつけられた名。  
漢字名：北赤蛭

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原) 鳥類  
ワシ、タカ、樹林

## 特定種

国レッドリスト (2007) : 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 形態的特徴

地色が鮮やかなオレンジ色の大型のシジミチョウ。尾状突起がある。

## 類似種と見分け方

アカシジミ。

キタアカシジミはアカシジミに比べて地色がやや淡く、翅の裏面の銀白線が細く、間隔も狭い特長があるが、極めて類似しており同定には注意が必要である。



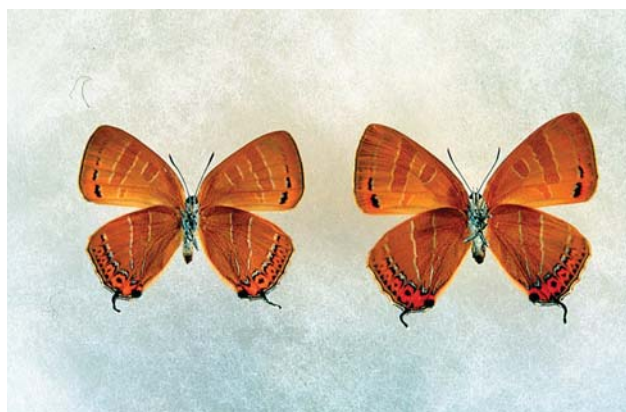
アカシジミ。表 (左がオス、右がメス)



アカシジミ。ウラ (左がオス、右がメス)



キタアカシジミ。表 (左がオス、右がメス)



キタアカシジミ。ウラ (左がオス、右がメス)

チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卵期	■				■							
幼虫期		■										
蛹期			■									
成虫期				■								

## 生育環境・分布

カシワ林に多く見られる。

**分布：**日本固有種。国内分布は、北海道、青森県、岩手県。北海道内分布は、主に道央、道東。

十勝地方では、平野部のカシワ林に広く分布。カシワの

防風林で多く見られる。

## 繁殖生態・寿命

年1回発生。成虫は7月より出現。夕方に活発に活動する。越冬態は卵態。卵はカシワの越冬芽の基部などに5～12個程度の卵塊でうみつけられる。

幼虫は若齢時は芽の中に潜り、次第に葉裏の基部の中脈付近にてでてくる。蛹化は葉裏で行われているのが確認さ

れている。生態についてはアカシジミとの間に差異についてなど今後の研究が待たれる。寿命：不明。

## 他生物との関わり

\*幼虫はカシワを食樹とする。

\*幼虫から寄生蠅が確認されている。

## 幼虫の食性（食樹）

カシワ。



上：カシワ。キタアカシジミ幼虫の食樹

左：カシワの冬芽脇に産み付けられたキタアカシジミの卵ふ化後、芽の中に潜り込む  
飼育・撮影-吉原利之

## 興味深い話

■キタアカシジミは1990年に新種として記載されたチョウである。もともとアカシジミの北海道亜種としてあったものが種として認められたのである。このチョウの元となった標本は帯広市稲田町の帯広農業高校の防風林で採集されたものである。カシワしか食べないこのチョウは十勝を代表するチョウの一つと言ってよいと思われるがその存在はあまり知られていない。晴れた夏の夕方、

カシワの林を見上げれば、樹上の葉をせわしなく飛び回るこのチョウに会える。

■十勝地方のアイヌ語では、シジミチョウ類を「スプンマレウレウ」、チョウ類一般を「マレウレウ」という。

## 配慮事項

食樹であるカシワ林が必要。

### 参考文献

「原色蝶類検索図鑑」猪又敏男 北隆館 1990

「十勝の蝶」大和与三追悼集 十勝蝶の会 1993

「キタアカシジミ特集号」蝶研フィールドvol. 6 No.4 蝶研出版 1991

「名前といわれ昆虫図鑑」栗林慧 大谷剛 偕成社 1987

「知里真志保著作集 別巻I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」  
知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・森林) 鳥類  
ワシ・タカ